

第1章 教養区分「総合論文」・大卒区分「政策論文」の傾向と対策

1 総合論文の概要

幅広い教養や専門的知識を土台とした総合的な判断力、思考力を判定する（人事院募集要項より）。

I：政策の企画立案の基礎となる教養・哲学的な考え方に関するもの 1 題

…大卒区分の政策論文と形式面での大きな違いはない（後述）。

II：具体的な政策課題に関するもの 1 題

（合計 4 時間）

・ 字数：答案用紙は 28 文字×32 行の両面で、I 部、II 部それぞれ答案用紙 1 枚に収める。（1200～1600 字程度が目安）

第 1 次試験合格者は、「基礎能力試験」の成績によって決定し、「総合論文試験」は第 1 次試験時に実施するものの、第 1 次試験合格者を対象に評定した上で、最終合格者決定に当たり、他の試験種目の成績と総合する。

2 政策論文の概要

「政策の企画立案に必要な能力その他総合的な判断力及び思考力についての筆記試験（資料の中に英文によるものを含む。）」（人事院発表のパンフレットより）1 題（2 時間）

・ 出題：1 問必答（文系・理系の枠に囚われない複合的なテーマ）

図表、英文資料を含む複数の資料を参考にしながら、課題設定や論理展開を行うような出題内容であり、幅広い視点から総合的考察ができる能力の検証が意図されている。

・ 試験時間：120 分

・ 字数：答案用紙は 28 文字×32 行の両面で、1 枚に収める

3 試験委員

試験委員は毎年 2 月の官報で公表されるので、時期が来たら各自ちゃんと確認しておいてほしい。参考までに、令和 7 年度本試験（春試験・教養区分試験共通）の論文試験委員は下記の 3 名である。

■ 令和7年度本試験（春試験・教養区分試験共通） 論文試験委員

①	神里 達博（千葉大学国際教養学部教授）2021年～	
	専門	科学史、科学技術社会論、リスク論
	研究テーマ	リスク社会論、科学技術政策論、科学技術コミュニケーション論に関連する問題。具体的には、専門主義と民主主義の関係や、科学技術に伴うリスク、ITや生命科学に関する倫理問題など。
	主要著書（多少なりとも試験対策になりそうなもののみ）	・『リスクの正体 不安の時代を生き抜くために』（岩波新書 2020年） ・『文明探偵の冒険—今は時代の節目なのか』（講談社現代新書 2015年）
②	越川 房子（早稲田大学文学学術院教授）2022年～	
	専門	臨床心理学
	研究テーマ	マインドフルネス、認知行動療法、抑うつ・不安、身体心理学、パーソナリティ心理学、実験心理学
	主要著書（多少なりとも試験対策になりそうなもののみ）	・『マインドフルネス 基礎と実践』（共編著 日本評論社 2016年） ・『テキスト現代心理学入門 進化と文化のクロスロード』（共編著 川島書店 2009年）
③	青木 栄一（東北大学大学院教育学研究科教授）2025年～	
	専門	教育行政学、行政学
	関心領域	官僚制のパネルデータ分析、教育と政治の関係、公務労働者（官僚、教員）のワークライフバランス
	主要著書（多少なりとも試験対策になりそうなもののみ）	・『文部科学省』（中公新書、2021年） ・『地方分権と教育行政』（勁草書房、2013年） ・北村亘〔編著〕『現代官僚制の解剖—意識調査から見た省庁再編 20年後の行政—』（有斐閣、2022年）

＜重要＞試験委員は数年で交代するが、(1)科学技術社会論、(2)日本政治・官僚制、(3)経営・ビジネス分野の諸課題、を関心分野とする研究者が試験委員に就任する構図は昔からずーっと変わっていない。このように書くと、専門記述試験対策のように、試験委員の代表的著作を読む等の対策が必要なのではないかと思われるが、実は、出題テーマこそ毎年異なっているものの、出題形式は毎年同じである。また、後述の出題傾向から明らかなように、試験委員の専門分野と試験の参考資料との関連性は希薄であるため、無理して試験委員の著書を購入して熟読する必要はない。それよりは、纏まった文章を書く訓練（XやThreadsじゃダメ！）をしてほしい。